

算数科・数学科 授業づくり講座 No. 4

【教材研究会】 6月4日 南国市立日章小学校

発行

令和元年 9月
中部教育事務所

今後の予定

9月13日(金)
14:00~16:30
授業研究会



こちらのQRコードから
中部教育事務所HPにアクセス
すると、これまでの他教
科を含む授業づくり講座の
記録がご覧いただけます!



模擬授業

授業者 原池 恵莉香教諭

単元 第6学年「速さの表し方を考えよう」

本単元末で期待する子供の姿

○単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、目的に応じて大きさを比べたり、表現したりする方法を考察し、日常生活に活かすことができる。

本単元における指導のポイント

- 実際に自分の歩く速さや走る速さを測定して表す活動を取り入れ、1秒当たりに走った距離や1m当たりにかかった時間を考えるなど、実感を伴った学習活動を行う。
- 5年生での単位量の考えと同じ考えで解決できることを子供に気付かせる。
- 毎時間、立式の根拠を自分の言葉で述べたり記述したりし、終末では学習の振り返りを行う。
- 学習したことを活用して、日常生活の問題を解決する場面を設ける。



提案授業のポイント

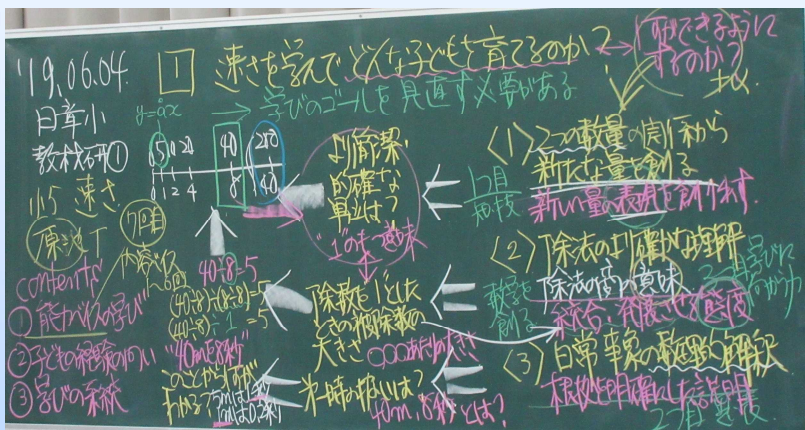
○既習である単位量当たりの考え方を基に、距離と時間が異なる場合の速さの比べ方を考える。

授業観察の視点

- 視点1** 児童の主体的な活動に結び付く「課題」を設定することができるか。
- 視点2** 主体的・対話的な授業が展開され、児童の思考が深まるようになっていくか。



高知県学力向上総括専門官 齊藤 一弥 先生による指導・助言



〈Ⅰ〉学びのゴールを見直す

能力ベースの授業では、学びのゴールを資質・能力の3つの柱で「何ができるようにするのか」を考える。本単元の1・2時間目では、①「時間」と「距離」の2量の関係から「速さ」という新しい数量を創る(知識・技能)、②これまでに学んできた除法の商は除数を基準量1とみたときに被除数がどれだけに当たるのかを表していることを、より確かにして統合・発展させる(学びに向かう力)、③無自覚的に判断している「速い」ということを、数理的に解釈し、根拠を明確にして説明する(思考力・判断力・表現力)、この3点を学びのゴールとして授業づくりを考える。

〈Ⅱ〉第1時~2時をどうつなぎ描くか

速さの学習では、「時間」と「距離」の2量を教師が提示するのではなく、この2量が必要であることに子供自らが気付くようにしていくことが必要である。また、「速さ」を考える場合には、一定の速さで走ったと仮定して考えていることや、厳密に考えれば比例の考えではないが、比例の関係にあるとみることで問題解決を図る。

〈Ⅲ〉見方・考え方の成長プロセスから本単元での学びを考える

速さを支える学びは1年生から始まっている。1年では数を5や10のまとまりとして見る乗法的表現、2年生では乗法。3年生では等分除で単位量の基本を、4年では基準量を決めて簡単な割合を求めることを学ぶ。異種の2量の割合である「速さ」は子供にとって新しい量ではあるが、速さで全く新しいことを学んでいるわけではない。これまで学んできたことの意味を少しずつ広げていくのである。その学びをどうやってつないでいくかがポイントとなる。